

## 第14回国際真空学会

吉原一紘

金属材料技術研究所  
 〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1  
 (1998年9月17日受理)

## 14th International Vacuum Congress

Kazuhiro YOSHIHARA

National Research Institute for Metals  
 1-2-1 Sengen, Tsukuba, Ibaraki 305-0047  
 (Received September 17, 1998)

1998年8月31日から1998年9月4日にわたり、第14回国際真空学会が英国バーミンガム市のコンベンションセンターにおいて開催され、それに出席する機会を得たので報告する。前回の会議は1995年に横浜で開催された。そのときには多くの国内関係者が実行に尽力されて多数の参加者が集まり、大変盛会であったことを記憶している。この会議の運営はIUVSTA (International Union for Vacuum Science, Technique and Applications) という組織により運営されている。この組織は世界各国の真空関連学協会が集まって構成されており、我が国からは日本真空協会が参加している。前回までは、この会議には固体表面に関する国際会議 (International Conference on Solid Surface: ISSC-10) が併設されていたが、今回は、それに加えて、第5回ナノメータ科学技術に関する国際会議 (International Conference on Nanometer-scale Science and Technology: NANO 5) および第10回定量表面分析に関する国際会議 (International Conference on Quantitative Surface Analysis: QSA-10) が併設された。IUVSTAの部会には、Applied Surface Science, Electronic Materials & Processing, Nanometer Science and Technology, Plasma Science and Technique, Surface Science, Thin Film, Vacuum Metallurgy および Vacuum Science からなり、これらの国際会議は全てこの部会のスコープに含まれるからという理由で併設された。

参加者が50か国、1000名を越えており、中でも我が国からの参加者は全体の1/3を占めていて、開催国の英国の参加者よりも上回っていた。本学会の塚田編集委員長をはじめ、表面科学会で顔見知りの方が多く参加されており、日本の国際会議に参加しているようで心強かった。他国の人から日本は不況と聞いていたが、まだ研究開発には余力があると感心されたが、筆者にも理由はいわからない。Plenary session では3件の講演があったが、その内の1件は日亜化学工業の中村さんによる青色発光ダイオード開発の話であった。実演を混ぜた大変わかりやすい講演だった。

本会議では、10会場にわかれて講演が行われるとともに、夕刻にはビールとワイン付きのポスター発表があり、合わせて1500件の発表があった。また各メーカーの展示もポスター会場と同時にわれ、大変にぎやかであった。筆者は、QSA-10 (Applied Surface Science Division との併設) の会場に主にしたので、他の会場のことはわからなかったが、NANO-5の会場では入場制限があり、招待講演の再演を行う必要に迫られたと聞いている。QSA-10 (Applied Surface Science) では発表件数はポスターを含めて211件あり、件数はISSC-10 (Surface Science) の544件に次いでセッション別では2位であった。QSA-10における招待講演は11件 (内1件は直前で取り消し) があった。表面分析法に関するものがほとんどであったが、中に米国NISTのPowellさんが、表面分析法の標準化に関する国際活動を紹介されたものがあった。Powellさんは表面分析法の国際規格化に関する技術委員会 (ISO/TC 201) の議長を務められている方であるが、表面分析法の標準化がどのように進められているかという現状を報告された。このような招待講演が行われることにより、分析法の標準化という地味ではあるが実用的には重要な分野に関する活動が行われていることが多くの人に理解されるようになるのではないだろうか。表面分析法に関しては、より細かい領域をどれだけ正確に解析し、それをどのようにビジュアルに表現するかという観点からの発表が多かった。

会議のプロシーディングスはセッション別に Surface Science, Applied Surface Science, Thin Solid Films, Vacuum 誌に掲載されることになっている。なお、次回は2001年に米国で開催される。